

平成28年度第2回えりも地域ゼニガタアザラシ保護管理協議会
議事概要

平成29年3月7日（火） 15:00-16:00
えりも町林業総合センター

議事① 平成29年度環境省えりも地域ゼニガタアザラシ管理事業実施計画（案）について

- ・定置網で捕獲する際、網を海に設置した後に資材を準備して、捕獲のための仕掛けを施すのでは作業の制約が多い。対応が後手になっている。先回りで準備が必要だ。
→これまでの反省点を踏まえて、来年度に向けては先回りで準備を進めている。（事務局）
- ・生息地から離れた場所で捕獲された個体にGPSを装着すれば、違う行動が見られるのではないかと。
→捕獲場所別の個体の行動についても調査する必要があると認識している。可能であれば、庶野地区を利用している個体についても調べたいと考えている。
- ・刺し網による捕獲で、溺死個体が生じる恐れはないのか。
→ほ乳類の動物福祉の観点から、必然的に溺死が生じる方法は採れない。刺し網による捕獲では、かかった段階で網を即座に引き上げることによって、溺死を防げることを確認している。一部溺死する個体が生じてしまったが、今後も最大限の努力を続けることで、刺し網による捕獲は可能であると考えている。（事務局）
- ・平成28年度の捕獲実績では、刺し網が最も効果的だった。来年度140頭捕獲するためには、刺し網を多く実施していくしかない。そのような状況なので、溺死を気にしていたら140頭には到達しない。→来年度は春秋で12回ずつ、合計24回の刺し網を予定している。努力量は平成28年度の3倍。溺死が生じる方法を採ると、捕獲そのものができなくなる恐れもある。最大限生きたまま効率よく捕獲するためには、今の方法によって刺し網を実施することが重要。（事務局）
- ・刺し網にエサをつけたらよいのではないかと。
→平成28年度の刺し網捕獲の実施状況から、アザラシを驚かせる手法と組み合わせると効果が高いことが分かった。このように、刺し網は単に設置しておくだけではなく、工夫を加えることで捕獲効果を高められると考えている。網にアザラシを誘引するような方法も検討したい。（事務局）
- ・刺し網はタイミングが重要。アザラシが活発に動いている時間に設置するべき。
- ・現在の生息頭数を短期間で大幅に減らし、その後しっかり保護するような管理を希望する。
- ・様々な意見が出たが、平成29年度の事業実施計画案については事務局案の通りでよいか。
→異議なし。（全体）

議事② その他

- ・日高振興局より、「親子で！ゼニガタアザラシ学習観察会」の実施予定について説明。
- ・えりも町郷土資料館より、ゼニガタアザラシ観察会の実施状況について報告。

その他

協議会後、地元漁業者等にも参加いただき、桜井泰憲氏（函館国際水産・海洋都市推進機構函館頭

足類科学研究所 所長/北海道大学名誉教授)より「最近の海洋環境変化と漁業資源,特にサケの動向」について、山村織生氏(北海道大学准教授)、小林万里氏(東京農業大学教授)より平成28年度モニタリング調査結果等について報告いただいた。

以上